

市長定例記者会見

冒頭説明

市長定例記者会見【令和6年第3回定例市議会】

【フリップ1】

【フリップ2】

はじめに、市内公共施設等の防犯カメラ増設についてでございます。

去る6月26日に追分1丁目付近、および8月4日に浜分近隣公園で相次いでわいせつ事件が発生したことを踏まえ、市では早急に犯罪の抑止並びに再発の防止を図ることが必要と考え、事件が発生したそれぞれの場所に防犯カメラを各2台設置するための経費を補正予算に計上することといたしました。

これまで防犯カメラの設置は、通学路等における犯罪の抑止を目的として、警察関係者や地域町内会等と協議しながら、令和4年度から計画的に行っており、今年度までに市内12箇所、17台を設置しております。

引き続き、市民の安全で安心な地域づくりを実現するため、全ての世代が住みやすい環境を引き続き整備していきたいと考えております。

【フリップ3】

次に「市長と語ろう タウンミーティング」についてでございます。

市では、市民協働のまちづくりを推進するため、これまでも町内会への予算概要説明・要望回答会などを通じて、市民ニーズの把握に努めてまいりましたが、より多くの方からご意見をいただき、市政へ反映させるため、市内で活動する団体等から直接話を伺う

タウンミーティングを実施することとしました。参加要件は、市内を拠点に活動している団体・グループ・サークルで、概ね5人以上出席が可能なこととしており、平日の10時から21時までの90分以内ということで受付しております。これまでも一貫して申し上げてきたとおり、私は、市民目線のまちづくりを基本に、SDGsの理念に基づくまちづくりを進めております。少子高齢化や人口減少など、本市を取り巻く課題は多岐にわたっておりますので、是非、市民の皆さんの意見を市政へ反映させる機会として、ご活用いただきたいと思います。

【フリップ4】

次に、防災総合訓練についてでございます。

今月8日に宮崎県で震度6弱の地震が発生し、その後1週間、南海トラフ「巨大地震注意」が発表されたことで、海溝型巨大地震を想定した本市の訓練に対する関心も高まっております。前回の記者会見で訓練の概要については、ご説明させていただきましたが、改めて詳細をご説明させていただきます。

本市の訓練は8月31日に実施するもので、日本海溝・千島海溝沿い巨大地震の発生を想定し、防災意識の高揚と災害対応能力の向上を目的としております。

【フリップ5】

訓練の内容といたしましては、午前8時30分に大津波警報が発表された想定で、防災無線と防災ラジオによる周知を行い、市民の皆様には徒歩で、緊急避難場所へ一次避難していただき、その後、バス輸送で二次避難先へ移動し、避難所訓練を行います。

また、市役所本庁舎も浸水することから、総合分庁舎への本部移動訓練も同時並行で行います。

【フリップ6】

津波避難訓練については、今回、上磯小学校の通学エリアを対象としており、高規格道路以南はすべて浸水することから、訓練参加者には、図にありますとおり、上磯中学校などの津波避難ビルや高規格道路高台に徒歩で一次避難していただき、その後、救助に来たバスに乗車して、二次避難先である公民館へ移動することとなります。

【フリップ7】

高台への避難では、写真にありますとおり、高規格道路のゲートを自分たちで開放していただくとともに、ガードレールを乗り越え道路敷地内でバスに乗車しますので、北斗中央IC～北斗追分IC間を午前8時から午前9時30分まで通行止めにする事となります。

高規格道路利用者の皆様には、ご不便をおかけしますが、訓練へのご理解とご協力をお願いしたいと思います。

【フリップ8】

二次避難先である公民館では、1階において段ボールベッドの組立など避難所開設・運営訓練を行います。

【フリップ9】

2階では、近年、ペットを連れての避難も大きな課題となっていることから、ペットのしつけや同行避難に関するブースも設けております。

【フリップ10】

また、屋外では、消防による救助訓練、ドクターヘリの離発着、自衛隊による炊き出しなど、関係機関のご協力による様々な訓練メニューも設けております。訓練参加は、今週末、23日の金曜日まで受け付けておりますので、是非、多くの市民の皆様にご参加いただきたいと思います。

最後に、新函館北斗駅周辺地区への企業立地の取組みについてでございます。

首都圏から新幹線で約4時間という交通アクセスをはじめ、本市の豊かな自然環境や人材確保の優位性など、新函館北斗駅周辺地区の立地環境には、高い関心が寄せられており、この春以降は、首都圏の複数のIT企業の経営者の方々が、新函館北斗駅周辺をはじめ、北斗市内の視察に訪れていただいております。私も直接お会いし、本市のまちづくりをはじめ、企業立地に向けた取組みについてご説明し、大変有意義な意見交換を行ったところでございます。

現時点ではまだ、企業名や場所等の情報をお知らせすることはできませんが、現在、サテライトオフィスの開設に向けた協議が進められており、近々、正式に決まり次第、発表いたしますので、取材等のご対応をよろしくお願い申し上げます。

質疑

*以下、質疑答弁については簡略化。

詳細については、市公式 HP 上にアップしているのでそちらをご覧ください。

URL <https://www.city.hokuto.hokkaido.jp/docs/16712.html>

■NHK 高橋記者

新幹線札幌延伸に向けて、3点ほど伺います。

まず1点目、7月30日の札幌延伸の推進会議の席で、運輸機構から渡島トンネルの現地調査結果が今年の秋、冬以降にまとまる報告があった。運輸機構側の意向があったわけだが、これについて伺いたい。

○市長

札幌での運輸機構の渡島トンネルの説明について、現在も専門家会議等で協議されているが、今年の秋冬等をかけて開業時期とか、その後の発表になる旨のお話をお聞きした。私からは、以前から申し上げているが、5月8日に鉄道運輸機構から国土交通省に対して、2030年度末の開業は極めて厳しいという報告がなされ、そしてまた、国土交通大臣からは、できるだけ早い時期に開業時期を示し、そういったことに至った原因等の究明とか、4点にわたっての返答があったわけだが、先ほど申し上げたように、この秋から冬にかけての調査という風なことになると、そもそも開業時期が今年度というか今年中に示されないということは、開業準備を進めている、例えば駅舎ができる周辺地域だとか、また我々、市も新幹線が来ている新函館北斗駅周辺の企業立地についても、大変大きな悪影響が出てくる。できる限り1日も早く開業年次を示してほしいということが北海道の願いということもあるので、今年中に示されないということは非常に残念である、という風なお話はさせていただいた。

(司会)

まずは、本日の発表内容の方から質疑を受け付けたいと思うので、よろしくお願いいたします。

■函館新聞 野口記者

タウンミーティングの件で、コロナ以前は確か「ほくトーク」という名前でやられていたと思うが、その違いと、改めて今回のこのタウンミーティングの狙いを教えてほしい。

○市長

今ご質問があった通り、以前は「ほくトーク」という形でもって実施をしていた。ただ、この「ほくトーク」という名称にもちょっと違和感があったのかもしれないし、「ほくトーク」の時には、最低人数は 10 名以上という縛りがあったのと、会場の手配などを相手方をお願いすることもあったが、より多くの市民の声を聞きたいということで、先ほど申し上げた通り、今回は5人以上、それから時間も午前 10 時から夜まで、その間、私の空いている時間 90 分程度で、より多くの市民の声をお聞きしたいという思いでタウンミーティングという形にさせていただいた。

■函館新聞 野口記者

対象は団体、グループ、サークルで広報を見ると総会の実施を問わず活動内容が確認できればという風にあるが 基本的には市内の団体のサークルで活動が確認できれば受け付けますよという認識でよろしいか。

○市長

そうです。広報ではそういった形で周知しているが、より柔軟な対応はしていきたいと思う。

■函館新聞 野口記者

防災総合訓練の件について。途中で出てきた写真の中で、平成 25 年実施訓練のものという記載があったが、平成 25 年の時はどういったものを想定して訓練されたのか。

○前澤総務課長

平成 25 年当時の訓練については、同じく津波避難を想定し、高規格道路の高台に避難して、2 次避難先に移動して避難所の体験をするという内容であり、今回の訓練は本部の移転も加え、総合的に行うということが今年度の特徴となっている。

■函館新聞 野口記者

平成 25 年訓練の時には、本部の移転訓練はなかったということか。

今回はその避難に加えて本部移転の訓練の実施が前回と違うところということでよろしいか。

○前澤総務課長

はい、その通りである。その当時は、津波の避難想定で市役所が何メートル浸水というようなと

ころまでは出ていなかったのですが、今回新たな地震の津波の被害想定を踏まえて、この移転訓練を行うということである。

■北海道新聞 川内記者

1 点、細かい確認だが、タウンミーティングは 2019 年令和元年ぶりということになるのか。

○前澤総務課長

タウンミーティングとしては、平成 29 年度 7 月 10 日以来。

■北海道新聞 川内記者

申し込みは始まっているのか。

○前澤総務課長

広報誌にすでに出しており、募集を受け付けている

■北海道新聞 川内記者

防犯カメラの設置についてだが、これは新たに浜分近隣公園と追分地下道に 2 台ずつ設置して、これで新たに 4 台設置し、今年度までに計 17 台になったのか。

○市長

いや、17 台にプラス4台である。

■北海道新聞 川内記者

最後に新函館北斗駅周辺への首都圏の IT 企業の視察という話で、近日中に報告できる見通しだと話していたが、日にちはどれくらいの見通しか、よろしければ教えてほしい。

○市長

これは相手方もあること。直接 IT 企業の社長さんとお会いさせていただいた。感触としては非常にいい感触を受けた。ただ、当然、相手方は結構大きな企業なので、例えばサテライトオフィス 1 つ開設するにしても社内での決定事項があるので、今回進出する企業の社内のコンセンサスを経て決定される。決定後には公表というか発表してもいいですよという状況になる。例えば、来週とか再来週とか、そういうことはまだ決まっていない。多分、そう遠くないだろうと私的に感触として思っている。

■函館新聞 野口記者

今のお話に関連して確認になるが サテライトオフィスの設置、これは協議を進めているというお

話だが、首都圏の IT 企業と交渉を進めているという認識でよろしいか。

○市長

はい、そうです。

■函館新聞 野口記者

サテライトオフィスは、複数箇所あるのか？

○市長

それも含めて、発表をできる状況になった時に発表したいと思う。

■NHK 高橋記者

サテライトオフィスのお話もあったように、新幹線利用客も増えて 盛り上がりが見える時期に、開業時期も定まらないということで、その辺りの受け止め、先ほどの回答と重なる部分もあると思うがお聞かせ願いたい。

○市長

今年の 5 月 8 日に、先ほど申し上げましたように、鉄道運輸機構から 国土交通省に対して 30 年度末の開業は極めて厳しいという発表がなされました。実は、それ以前に、新函館北斗駅前には企業進出のもう具体的な予定があります。当初、今年早い時期、6 月 7 月ぐらいに、こういう記者会見の場で発表できたその進出企業も、計画としてはあったわけである。ただ残念なことに、その札幌延伸が 2030 年度末は厳しいということで、その企業進出の計画も少し遅らせてほしいという状況である。ただ、その企業に関しては、当然 2030 年度前にできれば建物などの建築を完了したいという風な思いがあるので、先ほどの質問でお話したように、できる限り早い段階で開業年次を示していただかなければ、特に、新函館北斗駅の場合はもう開業しているので、当然、企業立地に関しては今言ったような影響は今後もあるだろうという風に推察される。そういったことは非常に残念である。

■NHK 高橋記者

最後に何うが、延伸に伴う函館線の経営分離について。来年度、2025 年度に協議会で方向性を判断する予定ですが、これについての判断時期は予定通りがいいか後ろ倒しすべきか、考えをお聞きたい。

○市長

現時点では、北海道から予定通り 2025 年度には方向性を示したいという話は伺っている。

■北海道新聞 川内記者

先ほど NHK が質問していた進出企業の計画があるという話だが、これは最初の発表で話をしていた企業か。

○市長

違うところである。

■北海道新聞 川内記者

交渉されているのは、1企業か。

○市長

複数です。

■北海道新聞 川内記者

今、発表できそうな感触があるのも複数か。

○市長

そこは複数になるのか、その時期がずれるのかどうかも含めて、まだ現時点で相手方、意思決定がなされていないというところもあるので、なかなかお答えしづらいところ。

■函館新聞 野口記者

1 番最後のページにある補正予算の件。企画費のところで、東京圏の大学を卒業する学生の市内の移住及び就職を支援するために支給する地方就職学生支援事業とあるが、具体的な取り組みは。

○新川財政課長

地方就職学生支援事業補助金について概要を説明する。まず、東京圏所在の大学に通学するものに対して、地方企業への就職活動に要する交通費、それと就職内定後の地方への引越し代を、一部調整することによって、地元企業への就職を希望する学生の U ターンなどを、後押しをするということと、あとはもう地方維持の活性化を図るということである。

■函館新聞 野口記者

ちなみに、広報はどういった形で実施されるか。

○新川財政課長

広報というのは周知のことか。周知については、これからホームページあるいは広報誌でお知

らせするような形になると思われる。

○市長

今回の総合防災訓練に関しては、実は臨時避難の時に、先般、災害協定を結んだ七飯町の協力も得て行いたいと考えている。津波が来ると、ここ市役所自体もその被害を受けるということで、避難するバスの手配が北斗市のバスだけでは万が一、立ち行かない場合も想定されるので、七飯町のご協力も得て、今回の総合訓練は実施したいと考えている。

以上で、市長の記者会見を終了します。